

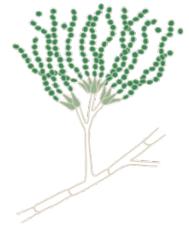


薬剤耐性菌を増やさないために — 抗菌薬の使い方を守ろう —

風邪をひいたとき、抗菌薬を処方されないと不安を覚える方もいるかもしれませんが、抗菌薬は、一般のウィルス性の風邪には効果がありません。抗菌薬の使い方を見直してみましょう。

○抗生物質の発見から薬へ

初めて発見された抗生物質は、イギリスの細胞学者のフレミングがアオカビから 1928年に発見した「ペニシリン」です。ペニシリンは、その後同じくイギリスのフローリーとチェインが、物質の抽出と大量生産に成功し、抗菌薬として世界中で利用されることになりました。



その後も、ワクスマンが放線菌から発見した「ストレプトマイシン」など、多くの抗生物質が発見され、細菌感染症の治療が劇的に進歩しました。

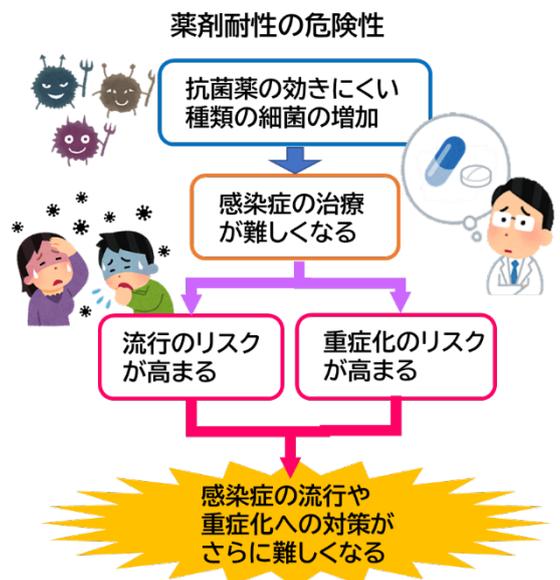
現在は、微生物が生産した細菌から生成された抗生物質だけではなく、合成の物質も含め、細菌感染症に対して効果のある様々な種類の「抗菌薬」が多く治療に使われています。抗菌薬は細菌に効くといっても、すべての薬がすべての菌に効果があるわけではありません。どの細菌感染症に効果あるかは、抗菌薬の種類によって異なっています。

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) と薬剤耐性

抗菌薬を使い続けていると、細菌の薬に対する抵抗力が高くなり、薬が効かなくなることがあります。これを薬剤耐性 (AMR:antimicrobial resistance) といい、薬への耐性を持った細菌のことを薬剤耐性菌といいます¹⁾。

黄色ブドウ球菌は、ヒトに常在する細菌で、健康な人には通常は無害です。しかし、皮膚の傷口の化膿の原因になったり、細菌感染症に対する抵抗力が低下した人には肺炎や敗血症、髄膜炎など様々な重症感染症の原因となることがあります。ペニシリンが発見・利用され始めた当初、黄色ブドウ球菌に対する治療の効果が高かったのですが、普及と使用量の増加に伴い、ペニシリンに耐性の菌が増加して世界各地に広がりました。そこで、これらの耐性菌に対抗するために開発された抗菌薬メチシリンは 1960 年ころより欧米で使用されるようになりましたが、間もなくメチシリンに耐性のある MRSA が海外で確認されるようになり、国内でも 1980 年代から問題になり始めました。耐性をもつ抗菌薬の種類も年々増えてきており、薬の開発と耐性菌のいたちごっこが続いています。

健康な人が MRSA に感染しても、体内の免疫機能が



働きあまり問題はありませんが、入院患者や高齢者などの抵抗力が低下した人が感染した場合、抗菌薬が効かないと重症感染症の原因になる場合があります。国内でのMRSA感染症の発生の報告は、2008年をピークとして若干減少していますが、まだ高い割合で推移しています²⁾。

現在、人だけではなく家畜などの動物や植物に対しての抗菌薬の使用が拡大している中、世界中で多くの薬剤耐性菌が確認され、患者も増加しています。2013年の段階では、このまま何の対策も取らなかった場合、2050年には世界中でがんによる死亡者数を超える年間1000万人の死亡が想定されると試算されました³⁾。

○薬剤耐性 (AMR) の拡大を防ぐための取り組み

世界のどこか1か国で耐性菌による感染症が流行した場合、人や物の交流を通じて世界に拡大するおそれがあります。薬剤耐性 (AMR) の拡大を防ぐには、国際的な取り組みが必要です。ヒト、動物、環境の健全性に関わる者が連携して取り組む「ワンヘルス」という考え方が世界的に広まっています。

WHO (世界保健機関) が各国に対して対策を呼び掛け、日本でも2016年から「AMR (薬剤耐性) 対策アクションプラン」が策定され、①普及啓発・教育、②動向調査・監視、③感染予防・管理、④抗微生物剤の適正使用、⑤研究開発・創薬、⑥国際協力の6分野の目標に沿って取り組まれています⁴⁾。成果の一つとして、アクションプランに示されていた動向調査については「薬剤耐性ワンヘルス動向調査報告書」を毎年公表しています。

薬剤耐性 (AMR) の拡大を防ぐためには、感染症にかかり抗菌薬を必要とする機会を少なくすることや感染症を周りに広げないようにすることに加え、医療の現場で、ウイルスによる感染症を始めとして、必要のない抗菌薬を処方しないという取組が重要です。それと同時に、私たち一人ひとりが抗菌薬を適切に使用することも重要です。

○私達一人ひとりにできること

1) 不必要な時に抗菌剤を飲まない

抗菌剤はウイルスには効果がありません。必要のない抗菌剤を求めないようにしましょう。

2) 抗菌剤を処方されたら、最後まできちんと飲み切る

処方された抗菌剤は、医師の指示通りに服用しましょう。症状が回復したからといって、途中で飲むのをやめたり、人にあげたり、取っておいて後で飲んだりしない。

3) 感染症にかからないようにする

正しい手洗い、マスクの着用や咳エチケットを守る、ワクチン接種による予防など。



【参考にした情報】

- 1) [抗菌薬が効かない「薬剤耐性 \(AMR\)」が拡大！一人ひとりができることは？ | 政府広報オンライン](#)
- 2) [IASR 457\(3\), 2024【特集】メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 \(MRSA\) 感染症 1999年4月～2022年12月](#)
- 3) [国立国際医療研究センター病院「AMR臨床リファレンスセンター」](#)
- 4) [薬剤耐性 \(AMR\) 対策について | 厚生労働省](#)